

# 民主島根

2023年  
**12.3**  
第1438号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 中国ブロック一斉宣伝 共産党の風吹かせよう パレスチナ・ガザ停戦を

### 松江 むらほ 衆議院1区、県議団らが商店街前で訴え



「ガザ攻撃中止」を呼びかける、むらほ氏(左から3人目)ら(松江市)



総選挙躍進へ、党の風を吹かす川西明德町議(奥出雲町)

日本共産党の中国ブロックいっせいで宣伝で、むらほ氏らも衆議院1区予定候補は11月17日、松江市で尾村利成、大國陽介の両県議、舟木健治、橋ふみ両市議、岩田剛東部地区委員長とともに宣伝しました。

むらほ氏は、イスラエルによるパレスチナ・ガザ地区への大規模攻撃によって、罪のない市民や子どもたちが大量虐殺される危険に直面しているとして、「国際法違反の『ガザ攻撃は直ちに中止を』の声を上げよう」と呼びかけました。

尾村県議は、物価高騰から暮らしを守る一番の特効薬は消費税の減税、インボイスの中止だと強調。社会保障が削減されれば、家計の負担が増え、

生活不安も増大し、消費と経済に大きなマイナスとなると述べ、「暮らしを支え、権利を保障する社会保障制度にしよう」と訴えました。

### 島根1号機廃止措置計画認められない

#### 尾村県議が委員長報告に反対討論

中国電力島根原発1号機(松江市)の廃炉作業の完了時期を延期する「廃止措置計画変更願望」について、島根県議会は11月27日の本会議で計画の変更を了承しました。自民党議員連盟、自民党ネクスト島根、公明党県議団、民主県民クラブの県議らが賛成し、日本共産党県議団(2名)のみ反対しました。

尾村県議は討論で「自分が生み出す核廃棄物の後始末ができない原発は完成した技術とは言えない。問題解決の道は原発

ゼロの政治決断以外にな」と強調しました。

### 大國県議が知事・議員の期末手当増に反対討論

日本共産党の大國陽介県議は同日の本会議で、物価の上昇や燃料・資材等の高騰、年金の実質的減額や医療費の負担増などで県民の暮らしが厳しさを増していることを指摘した上で「政治がまともな対策を講じていない」と、知事や議員の報酬を引き上げることに県民の理解は得られない」と強調し、特別職と議員の期末手当の支給割合を引き上げる議

案に反対しました。日本共産党県議団以外の会派、議員が賛成し、条例案は可決されました。

### 核燃料サイクル破綻している

#### 1号機廃止措置計画 尾村県議が反対

中国電力が島根原発1号機の廃炉作業の完了時期を延期する「廃止措置計画変更願望」を島根県に提出(8月8日)したことを受け、島根県議会の防災地域建設委員会は11月16日、破たんした核燃料サイクル政策を前提とした廃炉延期を委員会として了承しました。自民党議員連盟、自民党ネクスト島根、民主県民クラブの県議が賛成し、日本共産党の尾村利成県議だけが反対しました。

尾村県議(委員)は「廃炉には賛成」とした上で、計画の最大の問題は①同原発2号機の再稼働が前提②危険なプルトニウムを2号機で燃やすプルサーマル運転がセットにならない」と批判しました。同変更願望を巡っては、立地自治体の松江市、周辺自治体の出雲市、安来市、雲南市、鳥取県、米子市、境港市が了承すると中電に回答していました。

中電が計画する山口県上関町の間貯蔵施設建設についても「使用済み核燃料の処理方法がなく、核燃料サイクル政策が破たんしていることを電力業界が認めたものにほかならない」と批判しました。

沖縄と連帯する島根の会・講演会  
沖縄から考える「日本国憲法」と私たちの責任 ~10カ月間の滞在で学んだこと~  
**12月9日(土)** 10:00~12:00  
松江テルサ 中会議室  
講師 島根大学教授 **関 耕平 氏**  
資料代 500円  
主催: 沖縄と連帯する島根の会  
(連絡先:0852-25-5347 中林)

### 鼓動

2年ぶり2度目のアメリカン・リーグ MVPを受賞した大谷翔平選手。名実ともにメジャーリーグを代表する選手となったが、注目を集めているのはプレーだけではなく、大谷選手は、実力はもちろんのこと、審判やボールボーイへの紳士的な対応、丁寧なファンサービスなど人柄の良さでも知られている▼先日、日本全国2万校の小学校に低学年用グラブ3個(右利き用2個、左利き用1個)ずつ計6万個を寄贈することを自身のインスタグラムで発表し、「総額6億円のプレゼント」と大きく報じられた▼大谷選手は花巻東高校一年生の時に、細分化した目標を81マスに分けて書き込んだ「マンダラチャート」を作成。体づくりにメンタル、人間性など8つの柱を置き、「運」の項目に「ゴミ拾い」がある。今でもフィールドやベンチのそばに落ちたゴミを拾うことがよくあり、その様子がメディアにも取り上げられている▼花巻東高校の恩師・佐々木洋監督は「ゴミは人が落とした運。ゴミを拾うことで運を拾うんだ。そして、自分自身にツキを呼ぶ。そういう発想をしない」と教えた。「ツキ」の正体は、ゴミ拾いによって清められたメンタルや落ちているゴミに気づく心の余裕…。これが良い結果につながっているのではないだろうか▼大谷選手はインスタグラムで「野球を通じて元気に楽しく日々を過ごしても良かったら嬉しいです」「このグラブを使っていた子供たちと将来一緒に野球ができることを楽しみにしています」と綴った。「運」も手に入れた子供たちが数年先、大谷選手とグラウンドで一緒にいる日を見てみたい。(遠)